

26年センター試験実施速報(平均点等「中間発表」)

26年センター試験“基幹3教科”平均点合計(中間集計/600点満点)

「国語＋数学(I・A＋II・B)＋英語」は、 9.4点アップの341.7点(得点率56.9%)!

数学I・A+10.4点、英語+2.2点アップ。数学II・B-2.0点、国語-1.2点ダウン。地歴(B科目)・化学Iアップ、物理I前年並み、生物I・地学Iダウン／新課程入試控え、“安全・慎重”出願か!?

旺文社 教育情報センター 26年1月22日

26年センター試験(本試)が1月18日(土)・19日(日)の両日、全国693試験場で実施された。

大学入試センターは1月22日、各科目の平均点等の中間集計を発表。旺文社では当データを基に、基幹3教科である国語、数学(I・A+II・B)、英語の平均点合計(600点満点)を算出した。

前年大幅ダウンした国語と数学I・Aは、数学I・Aは10.4点の大幅アップに転じたが、国語は1.2点ダウンで2年連続下降した。英語は2.2点アップ、数学II・Bは2.0点ダウン。その結果、基幹3教科の平均点合計は前年より9.4点アップの341.7点(得点率56.9%)である。

また、地理歴史(以下、地歴)の各B科目、現代社会と政治・経済を除く公民、及び化学Iのそれぞれ平均点アップに対し、生物Iと地学Iは大幅にダウンした。物理Iは前年並み。

基幹3教科の平均点合計のアップで、理系の一部には強気出願もみられようが、27年新課程入試(数学・理科)を控え、文系・理系志望者とも全体としては“安全・慎重”出願になりそうだ。

■センター試験の志願状況

<志願者数56万672人、2年ぶりの減少>

- ① 志願者数、前年より1万2,672人減：26年センター試験(以下、セ試)の志願者数は、前年比2.2%減の56万672人で、2年ぶりの減少となった。

なお、受験者の最も多い外国語の「受験者数」は、52万5,955人(志願者の受験率93.8%)だった。

- ② “現役生”は2年ぶりの減少、“既卒者”は3年ぶりの増加：26年は高卒者数の大幅な減少に加え、大学志願率の前年並みが見込まれることから、現役生は2年ぶりに前年より1万6,548人(3.6%)減の44万3,318人だった。現役志願率は、前年と同じ42.1%。

一方、既卒者は、前年より4,205人(3.9%)増の11万1,914人で、3年ぶりの増加。

なお、高等学校卒業程度認定試験の合格者等の志願者は、前年より329人(5.7%)減の5,440人だった。

- ③ 志願者減の主な背景：

- 26年の18歳人口・高卒者数はともに2年ぶりに4%ほどの大幅な減少が見込まれ、

高卒者数は25年より約4万人(前年比約4%)減の約105万人が予測される(旺文社推定、通信制課程含まず)。

- 現役生の大学への進学志向を示す現役志願率は、23年(55.4%)～25年(54.9%)の3年連続で下降した。26年も進学志向が急激に高まることはないとみられ、前年並みの現役志願率が予測される。
- 私立大のセ試利用は、参加大学数が前年並みに留まり、有力大学の相次ぐ参加取り止めなどで、セ試利用入試の志願者数は頭打ち状態にあるとみられる。

なお、26年のセ試利用大学・短大は、公立・私立各1大学増の国公私立685大学／公立1短大増の公私立158短大である。

■「追試験」の受験許可状況、「再試験」の対象者数等

- 「追試験」は、病気や負傷、試験場に向かう途中の事故、その他やむを得ない事由により「本試験」を受験できなかった者を対象者として、26年は東京芸術大と大阪大で1月25日(土)・26日(日)に実施される予定である。

「追試験」の受験許可者数は東京芸術大164人、大阪大110人の合計274人である。

- 「再試験」は、雪・地震等による災害、試験実施上の事故、その他の事情により、「本試験」が所定どおり実施できなかった場合に実施される。実施日は、「追試験」と同じ。「再試験」対象者は335人で、受験希望者は150人。

■科目別平均点等(中間集計：大学入試センター発表、1月22日)

大学入試センターが発表した26年セ試の平均点等の「中間集計」から、主なセ試科目の前年との平均点差等を見てみよう。

- 平均点がアップした主な科目は、数学Ⅰ・A(前年の「中間集計」値との差。以下、同。+10.4点)、地理B(+8.5点)、「倫理、政治・経済」(+7.1点)、化学Ⅰ(+6.3点)、世界史B(+6.2点)、日本史B(+4.5点)、倫理(+3.1点)、英語(+2.2点。「筆記」+0.9点／「リスニング」+1.9点)、物理Ⅰ(+0.3点)など。
- 一方、平均点ダウンの主な科目は、地学Ⅰ(-17.2点)、生物Ⅰ(-7.5点)、数学Ⅱ・B(-2.0点)、国語(-1.2点)など。
- 24年セ試から地歴、公民、理科における各科目の得点には、「第1解答」と「第2解答」の得点が混在するため、各科目の平均点の実態が把握しにくい。

そのため、平均点の動向をみる一つの視点として、文系・理系に共通の“基幹3教科”である国語、数学、英語の平均点合計を算出した。

大学入試センターから発表された科目別平均点等の「中間集計」を基に算出した“基幹3教科”平均点合計(600点満点)は、次のとおりである。

- 【国語 + 数学(数学Ⅰ・A + 数学Ⅱ・B) + 英語】：341.7点(600点満点)
(前年「中間集計」値との差：+9.4点。得点率56.9%)

- 得点調整の対象科目間の平均点較差をみると、**地歴：地理B－日本史B＝3.6点／公民：倫理－政治・経済＝6.1点／理科：化学I－地学I＝18.4点。**

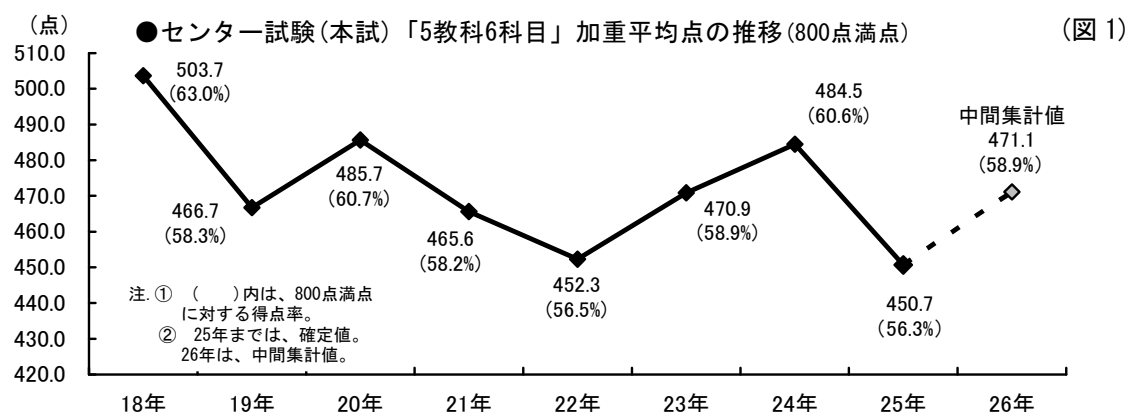
得点調整は、対象科目間の平均点較差が20点以上で、それが問題の難易差に基づくものと認められる場合に実施される。現時点では、いずれも20点以内に収まり、得点調整は実施されない模様。実施の有無は1月24日(金)、大学入試センターから発表される予定。

■ 「5教科6科目」加重平均点(800点満点)、14.1点アップの471.1点

国立大受験の動向をみるための参考に、文・理系型受験に共通の「5教科6科目」(国語、地歴・公民<合せて1科目>、数学<①と②の2科目>、理科<合せて1科目>、外国語<合せて1科目>の各加重平均の合計。800点満点)の平均点も算出した。

- 26年セ試「中間集計」時の「5教科6科目」加重平均点は471.1点(得点率58.9%)で、前年の「中間集計」値より14.1点アップしている。

セ試「5教科6科目」の最近の加重平均点(25年まで確定値)は、22年の452.3点(得点率56.5%)を底として、23年470.9点(同58.9%)→24年484.5点(同60.6%)と2年連続上昇し、得点率6割台のV字回復を果たした。25年は数学I・Aや国語といった基幹科目の大幅な平均点ダウンで、「5教科6科目」の加重平均点は再び大きく下降した。



注. ① ()内は、800点満点に対する得点率。
② 25年までは、確定値。
26年は、中間集計値。

注. 大学入試センター発表の各科目別平均点と受験者数から算出。国語(200点満点)の平均点、及び地歴と公民を合せて1教科・1科目とした加重平均点(100点満点)、数学①の加重平均点(100点満点)、数学②の加重平均点(100点満点)、理科の加重平均点(100点満点)、外国語の加重平均点(200点満点)を合計(800点満点)。

- 26年入試は、根強い国立大志向・地元志向のもと、景気の回復基調が伺える中、学部系統では相変わらずの資格志向と「文低理高」傾向になろう。

セ試平均点のアップで、理系の一部には強気出願もみられよう。しかし、27年入試から数学・理科が新課程入試になるため、既卒者への経過措置が講じられるとはいえ、文系・理系志望者とも全体としては“後がない入試”の意識から“安全・慎重出願”が見込まれる。

特に難関大(学部)では、前年のリベンジ組(既卒者)の増加などで激戦も予測され、現役生を中心に安全志向がより顕著になりそうだ。

☆ 次ページに、「26年センター試験平均点等一覧」(中間集計)を掲載。

平成26年度 大学入試センター試験 平均点等一覧(中間集計)

<平成26年1月22日 大学入試センター発表>

教科	科目	平成26年(中間)		平成25年(中間)		平均点 対前年差	
		受験者数	平均点	受験者数	平均点		
基幹3教科 平均点合計(600点満点) 【国語+数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B+英語(200点換算)】		- (得点率)	341.7 56.9%	- (得点率)	332.3 55.4%	9.4	
国語(200点)		230,826	97.6	212,385	98.8	▲ 1.2	
地理 歴史・ 公民	地理歴史(100点)	世界史A	665	47.9	695	46.9	1.0
		世界史B	41,637	70.2	39,924	64.1	6.2
		日本史A	1,132	47.9	1,135	41.5	6.4
		日本史B	67,473	67.9	66,535	63.3	4.5
		地理A	940	54.1	889	51.1	3.0
		地理B	52,786	71.5	46,103	63.0	8.5
	公民(100点)	現代社会	26,915	59.9	26,426	61.7	▲ 1.9
		倫理	13,311	61.8	13,082	58.7	3.1
		政治・経済	20,764	55.7	20,291	57.3	▲ 1.6
		倫理、政治・経済	20,951	69.0	19,960	61.9	7.1
数学	数学①(100点)	数学Ⅰ	3,425	41.7	3,228	43.6	▲ 1.9
		数学Ⅰ・数学A	173,785	63.5	140,998	53.1	10.4
	数学②(100点)	数学Ⅱ	3,021	33.8	2,577	29.1	4.6
		数学Ⅱ・数学B	155,061	56.5	123,735	58.5	▲ 2.0
		工業数理基礎	3	38.0	7	25.6	12.4
		簿記・会計	364	60.7	259	36.2	24.5
		情報関係基礎	115	60.9	128	59.2	1.7
理科(100点)	理科総合A	2,937	51.0	3,412	49.3	1.7	
	理科総合B	4,343	55.0	4,004	57.8	▲ 2.8	
	物理Ⅰ	74,068	63.0	60,896	62.7	0.3	
	化学Ⅰ	101,490	70.7	84,060	64.4	6.3	
	生物Ⅰ	69,286	55.5	62,686	63.0	▲ 7.5	
	地学Ⅰ	7,310	52.3	6,591	69.5	▲ 17.2	
外国語(200点)	英語	筆記(200点)	244,100	121.6	219,056	120.8	0.9
		リスニング(50点)	244,018	33.5	215,032	31.6	1.9
		筆+リ(200点換算)	-	124.1	-	121.9	2.2
	ドイツ語	90	150.5	74	146.9	3.7	
	フランス語	102	162.8	113	152.0	10.9	
	中国語	296	150.5	246	163.3	▲ 12.8	
	韓国語	103	145.3	110	141.6	3.7	

<注>

- ① 英語の平均点(200点)は、「筆記」(200点)＋「リスニング」(50点)の250点満点を200点に圧縮換算。
- ② 大学入試センター発表の科目別平均点は小数第2位の表示だが、旺文社では小数第1位で表示。
- ③ 表中の「平均点対前年差」は、四捨五入の関係で「26年－25年」と一致しない場合もある。
▲印はダウンを示す。
- ④ 地歴(各B科目間)、公民(「倫理、政治・経済」除く、各科目間)、理科(各Ⅰ科目間)における得点調整は、「化学Ⅰ」－「地学Ⅰ」の18.4点が最大で、実施されない模様。

旺文社 教育情報センター(平成26年1月22日)

